

## 平成25年度 第1回旭市道の駅建設準備委員会議事録

日 時：平成25年5月9日（木）

午後3時～5時15分

場 所：市役所3階委員会室

事務局：企画政策課

外部アドバイザー：(株)船井総合研究所

### 1. 開会

要綱改正（委員定数を1名増）の説明後、今回から出席の「旭市農業委員会小島勝夫委員」及び、変更となった4名の委員「JAちばみどり林茂正委員、千葉県海匠土木事務所米良信雄委員、千葉県海匠農業事務所増田千代子委員、建設課高野晃雄委員」を紹介  
・代理出席（平野(陽)委員代理：旭市商工会小川専務理事）、・欠席者（椎名委員）

### 2. 市長より委嘱状を交付

\*交付後に全委員から自己紹介

### 3. あいさつ

委員長：昨年度は12回に渡る慎重審議にご協力いただきありがとうございました。今年度は第3セクター設立準備委員会を設置するなど、新しい協議事項がありますので引き続きよろしくお願ひしたい。

市長：本日も忙しい中ご出席いただき感謝申し上げます。昨年1年間の審議を重ねた結果、実施計画を策定することができた。これも委員皆様の尽力の賜物である。

要綱改正により、本日より農業委員会から小島会長にも参加していただくことになり、また人事異動等により4名の委員変更があった。それぞれが持っているスキルを十分に発揮していただきたい。今年度はいよいよ測量や各種申請手続き、用地買収が始まる。平成27年10月の完成を目指して、今後も素晴らしい道の駅になるよう十分な議論をお願いしたい。

### 4. 議題

#### (1) 今年度のスケジュールと検討項目について

- 全体及び今年度のスケジュールについて説明（事務局）
- 今後の検討項目について説明（アドバイザー）
  - ・第3セクターの設立準備（発起人会の設立）
  - ・関係する団体への計画の周知
  - ・ハード関連（設計、建設）への意見集約
  - ・建設準備委員会と第3セクター設立準備委員会を平行して開催
  - ・駅長選定方法についての検討

#### 各委員からの意見

委員：駅長の募集時期が平成26年度ということでまだ期間はあるが、選定方法の議論

は早い段階から行なう必要がある。また、建設準備委員会と第3セクター設立準備委員会を同時進行するのはいい案だと感じた。

委員：資本金の出資割合等は、市ではどのように考えているのか。

市長：今の段階では当初の出資額は3～5千万円と想定している。市の保有割合としては議決権等の関係もあるので最低50%以上保有したい。

委員長：建設経済常任委員会で他の道の駅の視察を行なっているが、どの道の駅も個人出資はほとんどなく、JA等の団体や地元銀行等で保有している。市の保有割合が少なくなると、そこに一般企業等が参入する可能性が出てくる。今後の第3セクター設立準備委員会で調整していきたい。

委員：市長の言うとおりの50%以上は市で保有した方がよいと思う。

委員：いずれにしてもこれからの議論により決定していきたい。

委員：当方で運営している直売所では、出店している立地などの条件が良い面もあり集客は多い。ほぼ生鮮野菜のみの取り扱いなので、道の駅の参考にはならないかもしれないが、客単価は平均すると7～800円である。今後も建設準備委員会において今までのノウハウを活かせればよいと考えている。また、道の駅では当方の生産者150人の協力も仰ぐ考えである。旭ブランドを創出・発信して、それらをメインにお客様を集客していきたい。

委員：売上げ見込の数値は変動相場を反映させた数値か。または年間通した金額か。

アドバイザー：変動相場をある程度加味してはいるものの、基本的には平均的な価格で設定している。

委員：建設準備委員会から第3セクター設立準備委員会に移行する方法はスムーズに進めることができよいただろう。まずは消費者の意見をどんどん取り込んでいくべき。また、生産者の募集時期はいつ頃になるのか。

アドバイザー：26年6月頃を予定している。

委員：その時期だと設計が完了していると思うが、どのような生産者が入ってくるかを把握し、その生産者の意見を設計に反映させるべきではないか。もう少し早めに生産者募集等を始めることが必要では。

委員：売上げ計画の設定を3パターン程度試算しているようであるが、パターンによって収益額が変わってくるだろう。それにより投資限度額も変動させるべきか、その辺はどう考えているのか。また、今年度設計業務が始まるようだが、パターンによって施設規模の変更も考えているのか。

アドバイザー：旭市における道の駅の基本的なコンセプトは、休憩機能の他に、市内の様々な情報を発信すること、さらにプラスアルファ的な要素で経営の部分がある。民間企業の場合であれば委員の言うとおりのだが、今回は行政が整備する道の駅なので、実施計画の目的となっている、産業振興、地域振興、観光振興に加え4つ目の機能である防災機能を盛り込んでいることもあり、経営面も重視しつつもそこにばかりは縛られない考えである。なお、売上げから算定した施設面積から比較すると、若干大きめに設定をしている。

委員：今まで多くの道の駅に行ったが、近隣道の駅は地域住民がメインターゲットであ

ると感じる。旭も同様であろう。ブランド野菜は高価なので、贈答等にはよいだろうが一般のお客はある程度形が悪いものでも価格が安い方に魅力を感じるのではないか。また、地元で生産された野菜等を購入する場がないとの声をよく聞いており、道の駅設置の必要性を感じていた。

委員：計画スケジュールによると、施設の設計が今年度3月までに完了となっているが、出店者に対しての内容周知や意見収集が来年1月以降となると、例えば米の生産者が販売だけではなく、精米までやりたいという意見や、パン屋がその場で作って提供したいという意見があれば、意見収集するだけでなく設計に反映させるべきだと思う。他の道の駅では加工施設でパンを焼いて販売しており、売り上げもよく非常に好評のようである。

委員：設立法人における株式の保有割合について、市長の考えでは市で50%以上は持つべきとのことだが、問題はその他の資本の取扱いである。JAなどの大きな組織に出資の依頼をするのは間違いないと思われるが、個人の小口出資希望者をどう取り扱うかは慎重に議論しなければならないだろう。また、開発行為等の申請業務も順調に進める必要があるので事務局には不備のないようお願いしたい。また、駅長の選定方法も重要な課題であるので、次回会議時まで近隣の選定方法等の情報を提供してもらいたい。

事務局：各種検討資料等は、随時提出しながら会議を進めたい。

委員：組織の代表として出席しているが、その立場から発言させてもらおうと、当組織としては出資できる額に限度がある。市内企業等の理解が得られればそれを集約するような役割になってくるかもしれない。

市長：市内企業の出資希望については、商工会が中心となり集約してもらいたい。

委員：先日商工会理事会で市からの事業説明を受けたが、今後も広く周知をして情報発信しなければならないと思っている。

委員長：平成27年度中の開業は決定している。商工会関係者についても是非道の駅についての携わり方を検討していただきたい。

委員：広く関心を持ってもらうためには、個人出資も効果的と考えていたが、スムーズな法人の運営を考えると設立当初は個人出資については避けた方がよいと感じた。また、当方の関係団体に対しての周知の際に資料を用意してもらいたい。周知については、出資予定団体には早めに行なうべき。生産者や出店者の説明会や募集を早めることができれば、その意見を設計にも反映できるのではないか。

委員：生産者視点での意見が多かったので、自分は消費者の立場で意見したい。道の駅の健全な運営の第一条件は、どれだけ人を集められるかである。単なるスーパーマーケットではなく、旭市道の駅の特徴で勝負するべきである。買い物についても品物が豊富で魅力がある上に、例えば散歩コースをつくり、そのついでに買い物するなど、道の駅に行けば楽しめるというのが重要では。ブランド生鮮品の取扱いについては、生産者に自信があっても高価格等で客が魅力を感じなければ取り扱いは難しいのではないか。また、様々な加工品を取り揃えれば病院帰りの客等に非常に効果的だろう。個人出資については当初は対象にはしない方向で議論が進んでいるよ

うだが、広い範囲で関心を高めるためにはある程度は個人出資も必要ではないか。その代わり出資者には見返りを求めないような取り決めはできないだろうか。

委員：建設準備委員会と第3セクター設立準備委員会との平行開催はよい案であると思う。また、一般の方から道の駅の名称を聞かれる機会が多い。旭市道の駅の名称の募集はいつ頃を予定しているのか。周知・関心を広げる意味でもある程度早めに決定してもよいのではないか。健全な経営をするためには、いくら素晴らしい駅長でもサポートする職員にもある程度の能力が求められるだろう。また、農産物の出品についてはJAのサポートがあるから心配ないが、加工品等の出品者募集はなるべく早めに行なった方がよいだろう。近隣の道の駅では特定（人気のある）の加工品を買いに行くという傾向が多く見られる。

市長：単なる買い物だけならアウトレットやスーパーでも済む。旭には沢山の公園があるが、週末はどこも混雑をしている。買い物もできてくつろげる公園等の機能もあれば、2～3時間位は滞在できる施設になるだろう。

委員：他の道の駅に行った際、植木を取り扱っている方がいて親切丁寧に説明していただき非常に好感を持った。

委員：私どもの仕事として、直売に関わる農家の課題把握や整理をしている。旭市は農産物の大産地であり、大規模農家が多い事が特徴であり、直売所に関わるとなると心配な面でもある。直売所になぜお客が行くかという点、一つの理由には鮮度、もう一つは選ぶ楽しさである。お客はスーパーと同じ物を道の駅に求めている。様々な品目の野菜を選べる楽しさがあるといいのではないか。また、バラエティーのある品揃えにするため、できるだけ多くの人に出品してもらえシステム作りが重要であると思う。JAのみの対応では限界があると思うし、個人生産者の直接出品についてどう取り扱うのか、生産者の意向とこちらのすり合わせを事前に行い、魅力ある直売所を目指さなければならない。

委員長：農産物については個人で直接出品したい人を受け入れながら、JAに全面的にサポートをしてもらいたい考えである。

市長：個人とJAの出品ウェイトについては、これから議論していきたい

委員：今後は道の駅に出品するための品物を作っていきたいという人も多くなるだろう。常時出す人の数は少ないかもしれないが、数が多くなれば頼りになるだろう。

委員：駅長の人選方法等について、個人的にも検討している。大学の統計では駅長にのみ特化した資料はみつからなかった。一般公募の成功例であるが、既に募集が終了していた所に自ら売り込みに行って駅長に就任。基本設計が済んでいたが、基本設計を全面的に見直ししたとのこと。就任後1年半でオープンし、現在の売上げが10億円。就任後オープンまでの給料の取り扱いについては分からなかったが、人材紹介・派遣でも成功している例は多く、人選の方法は重要な問題である。道の駅の運営等について駅長が携わるタイミングも今後検討が必要である。

委員長：法人設立には株主の意向だけでなく、当然駅長の方針は反映されているべきであろう。駅長の任期は、通常特別な事情が無い限り、1期5年位はやっている。先進事例においても、売上げと資本金はリンクしていると思うので、旭市の道の駅

についても売り上げ目標に応じた資本金についての試算等を行い、委員に対し説明してもらいたい。

事務局：了解。

委員長：本日の各委員の意見を今後の検討資料にフィードバックしていただくようアドバイザーをお願いしたい。

アドバイザー：了解。

市長：次の準備委員会で駅長の選定方法を検討した方がよいのではないかと。公募の場合には、かなり早くから周知等を始めなければならないのではないかと。

## (2) 道の駅建設工事設計業務公募型プロポーザルについて

### ○事務局より報告

今年度を実施する道の駅施設整備の設計については、単に施設の外観や内装・外構等のみではなく、防災機能や省エネの検討に加え、施設内詳細や駐車場の動線に関わる部分といった道の駅の運営を左右する重要な検討内容もあるため、価格のみで受注者を決定（一般競争入札）するのではなく、企業の技術力や実績及び担当技術者の保有する資格等を総合的に評価して受託者を選定するプロポーザル方式を採用した。

5月22日に市のホームページ等で公告し、参加希望者の募集を行う予定である。

### 各委員からの意見

委員長：以上の報告について質問はないか。

各委員：特になし。

事務局：設計業者と契約後は、建設準備委員会において随時設計状況の報告と確認をいただきながら、皆さんと一緒により良い施設の設計ができるよう仕上げていきたい。

## (3) その他

### ・旭市道の駅計画の市民周知について（事務局）

市民の関心を高めるとともに、参入する生産者や加工業者などへの周知を図るため、行政側から道の駅計画の周知を始めているところであるが、各委員からも所属組織において、よりいっそうの周知を広めていただきたい。

終了